

1998年12月9日

北海道知事

堀 達也 様

(社)北海道自然保護協会
会長 俵 浩三

「時のアセス」による士幌高原道路計画の再評価の進め方に関する要望書

1998年度に予定された「時のアセス」の対象6事業(1997年7月選定)は、士幌高原道路を除いてすでに再評価の作業が終わっております。士幌高原道路については本年度内にとりまとめるが、それに先立ち12月中にも、関係者の意見聴取が行われる予定と伺っております。

士幌高原道路は時のアセスの象徴的な存在であり、その行方は公共事業見直しの一環として全国的な注目を集めています。それだけにその再評価は、客観的、論理的、合理的であることが必要で、かつその過程は透明性(情報公開)と住民参加が保障されなくてはなりません。

したがって士幌高原道路の再評価を進めるに当たって、下記のことを要望いたします。

記

1 関係者の意見聴取は公平に、公開で行うこと

関係者からの意見聴取に当たっては、公平・中立(聴取する相手の選択、人数などはバランスよく)、公開(意見聴取の場は公開とする)の原則を堅持するとともに、ただ単に形式的に聞くだけでなく、その意見をもとに論議が深められるようにしてください。

2 積極的な情報公開を行うこと

先に公表された「再評価スケジュール」によれば、士幌高原道路に関しては本年10~11月に「中間報告」がされることとなっておりますが、それを受けたものとしては10月下旬に「道民意識調査」の中間報告が行われただけであり、その他の情報公開はなされておられません。

例えば私たち自然保護団体は本年9月8日に知事あてに、「士幌高原道路に関する基本問題を時のアセスで検証し計画を撤回することの要望書」を提出し、その過程を中間報告するように要望してありますが、これに対して、北海道が何をどのように検証したのか、していないのか、その中間報告はまったくなされておられません。したがって当該要望に対する再評価過程を含めて、士幌高原道路の再評価に関する中間報告を積極的に行ってください。関係者からの質問に答えることなく、年度末になって「結果」だけが公表されるようなことは、絶対にあってはならないことです。